

第2節 酸性雨[※]対策の推進

現況

環境省が実施した平成 20～22 年度の越境大気汚染・酸性雨長期モニタリングによれば、全国の測定地点における降水 pH の3年間の平均値は 4.54～5.15 の範囲にあり、降水は引き続き酸性化した状態であることが認められた。一方で、酸性雨に起因する広範囲の植生衰退は認められず、生態系への被害が顕在化しているとはいえないと報告されています。但し、現在のような酸性雨が今後も降り続くとすれば、将来、酸性雨による影響が顕在化する可能性も指摘されています。

※一般的には pH5.6 以下の雨をいう。

課題

酸性雨による影響は、長期継続的なモニタリング結果によらなければ把握しにくいとして、国では長期モニタリングの着実な実施と東アジア酸性雨モニタリングネットワークを通じた調査研究の普及等を今後の課題としていますが、本県としても継続的な調査実施とともに国や海外との情報交換の場に参加していくことが必要です。

取組

県内の酸性雨の状況を把握するため、平成元年度から4地点(八代市、宇土市[※]、阿蘇市、苓北町)で雨水のpH等の調査を行っています。平成24年度の調査結果では、各地点の年平均値は酸性雨の目安であるpH5.6を下回っています。

現在、九州・沖縄・山口の各県と酸性雨に関する共同調査研究を実施し、原因の解明を行うとともに、全国環境会議協議会において情報共有を行い、広域的な酸性雨の調査に参加しています。

※平成 20 年 4 月に人吉市より移設。

表 4-2-1 平成 24 酸性雨調査結果 (pH 年平均値)

	平成24年
八代市	4.72
苓北町	4.75
阿蘇市	4.60 [※]
宇土市	4.70

※阿蘇市に配備した降水時開放型捕集装置は、九州北部豪雨の影響で故障し、8 か月間欠測のため、阿蘇市のデータは参考値扱いとしている